

富士河口湖町立 教育センターだより

No.21

令和3年2月10日
文責 渡辺 富美夫



小学校外国語科実施 **成果と課題**

第2回外国語教育研究会

1月28日(木)に第2回外国語教育研究会が行われました。今回は、課題に挙がっている「外国語の指導と評価」について、富士東部教育事務所指導主事三枝幸一先生にご指導していただきました。



評価については、外国語・英語だけでなくすべての教科の共通の課題です。三枝指導主事からは、「指導と評価の一体化」が大切で、そのためには目標の把握に努め、それがどの程度達成できたかを評価規準に基づいて評価を行うこと、CAN-DOリストで目標が示されているので日頃の指導の中でポイントを絞って、計画的に行うようにという内容でした。また、「見方・考え方が大切であり、それは働きかけこそ育つという話もありました。テストのような1回で評価をするということや数値だけで評価してしまうことがないようにという指導もありました。

とても大切な内容でしたが、時間の関係で十分な質疑ができませんでした。次のような資料を配布していただきました。評価について分かりやすく重要な資料ですので元資料も含めて参考にして生かしてください。また、評価について学ぶことは授業の在り方にも強く結びついていますので、ぜひ、三枝指導主事を招聘していただき、指導と評価について深めていただきたいと思います。

- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料第3編「単元ごとの学習評価について(事例)」—中学校編ではテスト作成方法やその評価の事例が示されている。(国立教育政策研究所令和2年3月)
- ・パフォーマンス課題とその評価について(参考文献-Q&Aでよくわかる!見方・考え方を育てるパフォーマンス評価)
- ・外国語活動・外国語の目標の学校段階別一覧表(学習指導要領解説)
- ・学習指導案例(県教委作成)
- ・山梨県「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標(県教委作成)
- ・令和2年度 山梨県版CHALLENGEリスト(県教委作成)
- ・年間指導計画例3,4年(県教委) ・「5,6年年間指導計画例」(教科書会社編)
- ・教科等の「見方・考え方」と「主体的・対話的で深い学び」(東京都多摩教育事務所)

配布資料

外国語教育研究員の先生方が持っています

成果と課題、疑問 については、主に次のようなものがありました。

評価について

- ・県の指定を受けての研究を行ったため、3観点による評価の仕方が理解できてきた。ただ、知識・技能、思考判断表現、主体的の3つについて、特に思考判断表現をどのような方法で、どのようなタイミングでどのような規準で評価を行えばいいのかが悩むところである。
- ・活動に集中して評価につながる感想やプリントを残していくことが大事になる。(6年)
- ・テストではないが、ワークシートへの書き込み等を日頃から評価している。
- ・悩みました。30人を時間内に評価するのは難しいです。発表などを中心に見ていますが、主体的のところが見りにくい。ペーパーテストをした方が良いのか迷っている。
- ・テストによる評価を行っていないので、知識・理解についての評価が難しかった。
- ・毎時間、その時間学習した内容についての英作文のお題を1題出題し、生徒が英文で答えた。とにかく1文書いたらその日の評価はA、2文以上書いたらA○としている。生徒によっては3文、3年生になると5文書ける子も出てくる。それを毎時間回収添削している。(中学校)

裏面に続きます

指導・内容や授業の組み立て

- ・担任による外国語科の授業について、一人一英語教育実践を行った。先生方の声としては「難しかった」「何となくわかってきた」という声が出てきた。ただ教科書をデジタル教材を用いて進めることは可能だが、つながりのない授業になる可能性がある。目的を明確にして、活動を工夫していく必要がある。一方で授業準備に関して、他教科よりも多くの時間を要する。負担軽減を考えていく必要もある。
- ・単元の目標に向かってチャンツや段階的なやり取りを通して少しずつ必要な表現を学びながら英語を身に着けられる組み立てになっている。
- ・ALTの自作の教材を活用することにより、児童の興味関心を高めることができた。
- ・教科書の全てのページにおいて、山梨県の入試問題に準拠した問題を作成し、生徒が挑戦している。教科書の内容理解の後、まずは、5分間個人で解き、その後班で話し合って答えが全員同じになったら先生を呼び、先生が○付けをする方法をとっている。その問題の作成をALTにお願いしている。最初は、考えなくても答えられる問題が多かったため、生徒が考えなければ答えられない問題の作成をしてくれるよう指導している。(中学校)

児童の学習効果・変容について

- ・専門的な視点で指導して下さるので、力がついてきている。(フォニックスや教科書等)
- ・楽しくやる気がある。多教科との関連があるので、児童のやる気が高い。
- ・発音をネイティブにしようとしている児童が出てきている。
- ・フォニックスでの発音が身についており、学んだことのない単語も読んだり、推測ができたりするようになっていく。
- ・各々児童の定着には個人差があり、単語の記述の授業に入ってから、差がさらに明らかになっている。
- ・英語で表現することに対する抵抗が以前より減ってきたように感じられる。
- ・生徒は、授業の中で、生き生きと英語をしゃべったり、班内で話し合ったり、教え合ったりしている様子が見られる。(中学校)

英語支援スタッフ・ALTの関わり・役割について

- ・現在は、評価は担任が行う学校がほとんどではないだろうか。そうであれば、担任が主体で授業を行い、英語支援スタッフはT2という立場での働き方になる。そうでなければ、指導と評価の一体化を図ることは難しい。
- ・確実に児童全員が話す機会が作れるよう、担任・スタッフ・ALTで手分けして、今後も個別対応をしていきたい。
- ・ALTが授業の中で子どもたちへ丁寧に対応してくれている。また、いつも前向きな姿勢で指導にあたっていただき本当にありがたい。
- ・担任だと教材研究を深く行うことができないので、毎回授業の方向性を示していただき有難い。
- ・担任は正しい発音ができないので正しい英語を子ども達が耳で学ぶことができ、有難い。
- ・外国語の正確な発音や外国の生活習慣について、学ぶことができている。

先生方へ
全ての意見は、「全校共通」内「町教育センター」の中を「ご覧ください」

「英語教育改善プラン推進事業」小立小学校より



今年度、県教育委員会より「英語教育改善プラン推進事業」の指定を受け、全職員で研究を進めています。研究の柱として①外国語の授業づくりについて②学習評価についての2つを掲げ、理論研究や研究授業を通じた実践的な研究を行ってきました。現時点で、多くの成果と次年度に向けた課題を見出すことができている。外国語教育は新しい学習指導要領の中心的な取り組みとして位置づけられています。今後も研究を深める中で、より充実した授業づくりをめざして、研究を進めていきたいと思っております。



ALTとの会話